

巻 頭 言

飯 田 妙 子

昭和58年に発足した「石川県看護研究会」は平成3年第7回研究会を終え、ここに論文集を出版することは、誠に喜ばしいことです。総合看護を柱に、教育、医療の現場および地域で働らく看護職の三職能が一堂に会し日頃の研究成果を論ずる場として歩み出し、年々会員の研究意欲が高揚し、質のある研究がすすめられています。一方医療・医術の進歩は、めざましく看護の領域ではそれらに側した対応が求められており、当研究会の役割は大きく、看護職からの期待がかかっています。昨年度は次ページにまとめてあるように、東京医科歯科大学医学部保健学科助教授である羽山由美子先生から研究方法論の講演をしていただきました。本年の研究会は、研究能力の向上を図ることで、看護研究のすすめ方の原点にもどっての基礎づくりを目的として企画いたしました。内容は、10題の研究発表と特別講演で、千葉大学看護学部教授野口美和子先生から「事例検討から事例研究へ」と題して、講演をいただきました。野口先生からは、研究発表の内容について、一題ずつ詳しくご教示を賜わり、誠に意義のある研究会でした。これらの内容が論文集にまとめられ、一人でも多くの方の目にふれていただくことは非常に意義があると存じます。

看護は実践行為を通して確められる必要があります、より確かなものへと高められていくことがめざされます。どうかこの論文集で得られたものを現場で活かされますよう折に願います。

また当研究会は会員400余名で支えています、今後多くの方の入会を期待します。

幸い本年度から行政が、看護研究に対しての経費に助成し、職場の活性化を図ることになりました。このことは看護協会でも検討をすすめていたことで、県より委託を受け実施されます。これを機に広く看護職の皆さんに日頃の業務のなかで研鑽を積れ、研究会にご参加下さいますようお願いいたします。